

# ワタシゴトをアップデート！

## 第3次静岡市生涯学習推進大綱

### 基本構想（案）

※「ワタシゴト」とは、

わたしの「好きなこと」「知りたいこと」「役に立つこと」＋「仕事」につながる学びのこと。  
生涯学習やまちづくりを自分ごととして捉えるための、静岡市の新しい言葉。

※ワタシゴトをアップデートとは、

今よりも成長した「ワタシ」になること。

今までの生涯学習のイメージから離れ、若い世代の「大人の学び直し」を含めた幅広い学びのイメージを伝えるためのキャッチコピーです。

**静岡市**

**市民局 生涯学習推進課**

# 目次

---

## はじめに

I. 生涯学習ってなんだろう	1
II. 大綱の構成	3
III. 第3次静岡市生涯学習推進大綱のキャッチコピー	4

## 第1章 大綱策定にあたって

I. 策定までの経緯	5
II. 生涯学習の現状と課題	6

## 第2章 基本構想

I. 将来像と8年後の目指す姿	8
II. 生涯学習推進の基本的な方向・基盤づくり	10
III. 生涯学習推進体制	12
IV. 推進期間	13

# はじめに

---

## I. 生涯学習ってなんだろう

私たちの暮らすまちには、お茶や将棋などのサークル活動を楽しんだり、体育館や公園でスポーツをしたり、美術館で絵画を見たりして、余暇を過ごす人がたくさんいます。

また、刻々と変化し、先の見えない社会の中で暮らしをより良くするために社会問題や科学を取り上げた本を読んだり、動画を観たり、仕事のスキルアップのために資格を取ったりして、日々自分を磨いて過ごす人もたくさんいます。

そうした暮らしの中にはたくさんの「学び」があります。

本を読んで新しいことを知ったり、練習してできなかったことができるようになったり、職場で認められたりと、昨日よりも少し良い自分と出会えるところに、学びの喜びがあるのではないのでしょうか。

人生 100 年時代と言われていますが、人生がマルチステージ<sup>\*1</sup>化し、人はみな子どもから高齢者まで、いくつになっても新しいことを学び続けていくことが求められています。

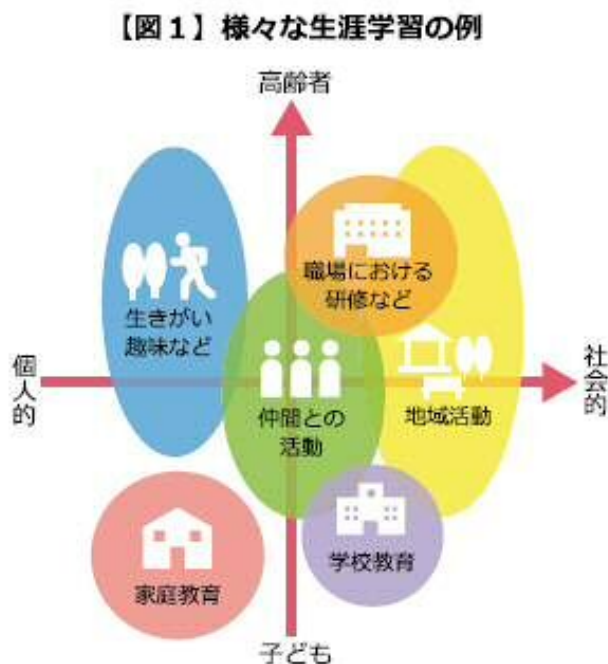
<sup>\*1</sup> マルチステージ：リング・グラットンが提唱する、社会に出てから会社勤めや学び直し、起業など様々なステージを並行・移行しながら生涯現役であり続けるというモデルのこと。

---

学びは、家庭や地域、職場、公園など様々な場所で、地域の人たちや仕事の同僚、サークルの仲間、ときには初めて出会う人などとの人と人との間で、共に学ぶ喜びや、活かされる喜びをもたらします。

暮らしの中で、主体的に行われる多様な学びを『生涯学習』といいます。  
(図1)

学びを楽しみながら、自分らしさを育て、より豊かな人生を送ることは、誰もが持つ権利です。



---

## Ⅱ. 大綱の構成

第3次静岡市生涯学習推進大綱の構成は、次のとおりです。

### ● 基本構想

行政、市民、企業、大学、NPO等がともに進める生涯学習社会の実現に向けた本市の基本理念を定めるもの

### ● 推進計画

基本構想を実現するための施策を体系化したもの



---

## Ⅲ. 第3次静岡市生涯学習推進大綱のキャッチコピー

第3次静岡市生涯学習推進大綱では、今までの生涯学習のイメージから離れ、若い世代の「大人の学び直し」を含めた幅広い学びのイメージを伝えるため、次のようなキャッチコピーをつけることにしました。

ワタシゴトをアップデート！

「ワタシゴト」とは、わたしの「好きなこと」「知りたいこと」「役に立つこと」と「仕事」につながる学びのことです。「ワタシゴトをアップデート！」には、今よりも成長した「ワタシ」になるイメージを込めています。

お茶などのサークル活動を楽しんだり、体育館や公園でスポーツをしたり、美術館で絵画を観たりすることで、日々の暮らしをアップデートし、仕事のために資格を取ったり、時事問題についての理解を深めたりすることで、仕事をアップデートしていくことができます。

また、地域にある課題を自分ごとと捉えて、観光客をおもてなしするボランティアガイドとして活動したり、子どもたちの学習支援活動を行ったりすることで、「ワタシ」の住むまちをアップデートすることもできます。

# 第1章 大綱策定にあたって

---

## I. 策定までの経緯

本市では、市民一人一人が学びによってより豊かな人生を送ることができるよう、誰もが、いつでも、どこでも学び、その成果を適切に活かすことができる「生涯学習社会」の実現を目指してきました。

平成15年に旧静岡市・旧清水市が合併した後、平成17年に第1次静岡市生涯学習推進大綱が策定され、現在の基礎となる推進体制が整いました。平成27年に策定された「しずおか☆希望の人づくりプラン（第2次静岡市生涯学習推進大綱）」の計画期間中には、平成28年に「まちづくりは人づくり」の考え方をもとに、各課で行われている人材養成講座をまとめた「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」が開講しました。

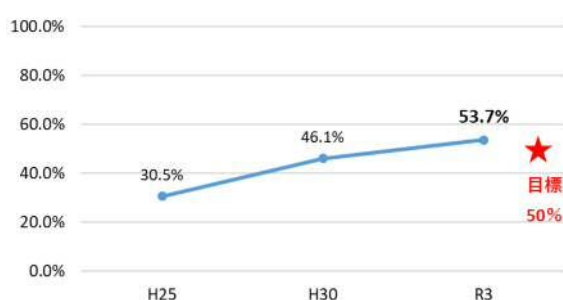
令和3年6月には、第3次静岡市生涯学習推進大綱策定について静岡市生涯学習推進審議会に諮問し、令和4年4月に答申がありました。この答申を受けて、生涯学習の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための基本的な指針として、本大綱を策定します。

## Ⅱ. 生涯学習の現状と課題

第2次静岡市生涯学習推進大綱では、「いつでも、どこでも学び、学んだことを活かすことのできるまち」を目指し、生涯学習施設を中心として生涯学習団体の活動促進、多様なテーマの学習機会の提供に努めてきました。

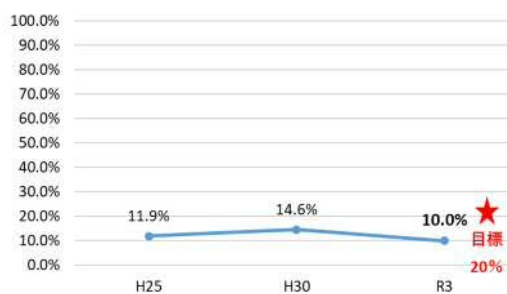
市民意識調査によれば、生涯学習を行っている市民の割合は順調に増加しています（図2）。

図2 生涯学習を行っている市民の割合



出典：静岡市スポーツ活動・生涯学習に関する市民意識調査

図3 学んだことを地域や社会での活動に活かしている市民の割合



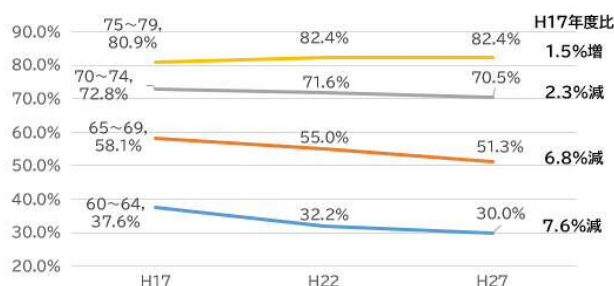
出典：静岡市スポーツ活動・生涯学習に関する市民意識調査

しかしながら、同調査によれば、学んだことを地域や社会での活動に活かしている市民の割合は減少しています（図3）。特に50代以上で大きく低下しており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中高年が多く参加している自治会活動などが減少したことが原因として考えられます。

また、国勢調査によれば、静岡市の60歳以上の非労働力人口率が減少しています（図4）。このことから、中高年の就労率が増加し、人生のうちの働く期間が延びていると考えられ、自治会等への参加が更に難しくなっていく可能性があると考えられます。



図4 静岡市内の年代別の非労働力人口率



出典：国勢調査（H17は静岡市、旧蒲原町、旧由比町の合算）

図5 令和2年度生涯学習団体構成員の年齢構成



出典：静岡市調べ

DX<sup>\*2</sup>の進展やポストコロナ社会などの経済社会の激しい変化への適応が不可避となり、また、長寿化による人生100年時代において人生がマルチステージ化して働く期間がますます延びており、リカレント教育<sup>\*3</sup>やリスキリング<sup>\*4</sup>等といった大人の学び直しなど、学校教育を終えて社会に出てからも常に学び続け、新しい考え方やスキルなどを身に付けていくことが求められています。

こうした中、本市の生涯学習の中心である生涯学習施設をみると、主な利用者の約7割が60歳以上であり、若い世代の学びの場になっていません(図5)。

そこで、若い世代にとっても魅力を感じられ、使いやすい施設づくりや魅力ある学習機会の提供に取り組んでいくとともに、より幅広い層の学習ニーズに対応するために、これまでの対面式の学習だけでなく、ICTを活用したオンライン形式の学習などを提供していく必要があります。

また、学びを通じて地域や社会へ貢献したいと思っている人材が活躍できるように支援していく必要があります。

\*<sup>2</sup>DX：最新のデジタル技術を駆使した、デジタル化時代に対応するための変革のこと。

\*<sup>3</sup>リカレント教育：学校教育からいったん離れた後に、必要なタイミングで再び教育を受けること。

\*<sup>4</sup>リスキリング：転職や今の職業で必要とされるスキル的大幅な変化に対応するために、必要なスキルを獲得すること。

## 第2章 基本構想

### I. 将来像と8年後の目指す姿

本市では、学んだことを自分の暮らしや仕事に活かしたり、地域や社会での活動に活かしたりと、行動を起こしていく人が活躍できる生涯学習社会を目指し、次のような将来像を掲げました。

**だれもが、いつでも、どこでも学び、  
学んだ成果を活かすことのできるまち**

多様な学びを楽しみ、社会に参加し、行動を起こす市民が増えると、まちが活性化していきます。

市民が活発に活動するまちには、豊かな学びの広がりがあります。

本市では、「人づくりはまちづくり」の考えのもと、自ら学び、学んだことを「自分のため」「みんなのため」に活かす市民を増やすことで、静岡市をよりよいまちにしていきます。

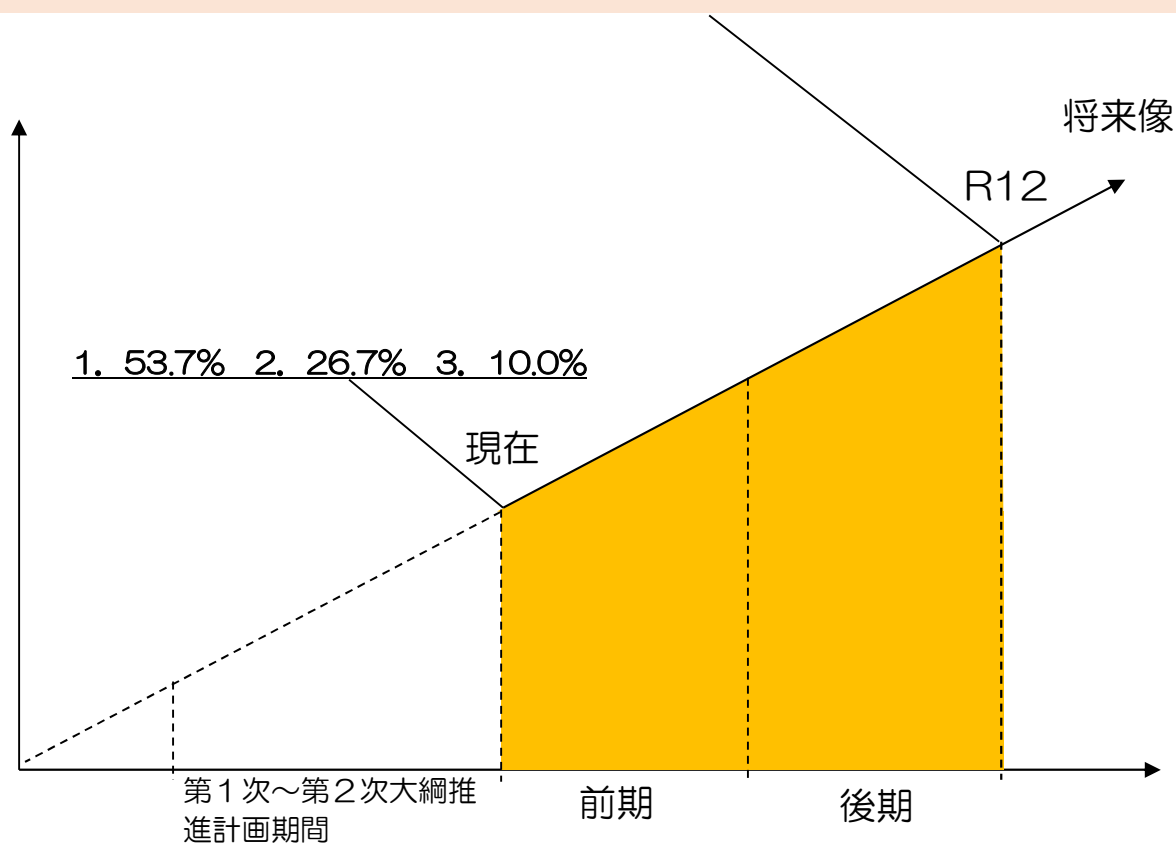
この将来像に向けて、第3次静岡市生涯学習推進大綱では、本市の「8年後の目指す姿」を次のように掲げました。

- ・より多くの市民が生涯学習を行っている
- ・より多くの市民が学んだことを職業生活や地域、社会での活動に活かしている

そして、本市の「8年後の目指す姿」が達成されたかどうかを評価するために、次の成果指標を定め、その実現に取り組めます。

図6 8年後の目指す姿の達成イメージ

- |                                |    |
|--------------------------------|----|
| 1. 生涯学習を行っている市民の割合             | 0% |
| 2. 学んだことを仕事や就職活動に活かしている市民の割合   | 0% |
| 3. 学んだことを地域や社会での活動に活かしている市民の割合 | 0% |



## Ⅱ. 生涯学習推進の基本的な方向・基盤づくり

8年後の目指す姿の実現に向け、本市の生涯学習推進の方向性として、次の3つの基本的な指針を立てました。

### 1 学ぶことで、豊かなわたしになります

誰もが自分らしく豊かに生きていくために、生涯を通じて主体的に学んでいきます。

### 2 わたしの学びを、みんなの学びにつなげます

様々な人々と出会う学びの場で、互いの「違い」と「同じ」を認め合ったり、共感しあったりして、学びを周りへ広げていきます。

### 3 みんなの学びを活かして、豊かなまちを創ります

学びをきっかけに地域と関わり、社会の問題に自分ごととして取り組むことで豊かなまちを創っていきます。

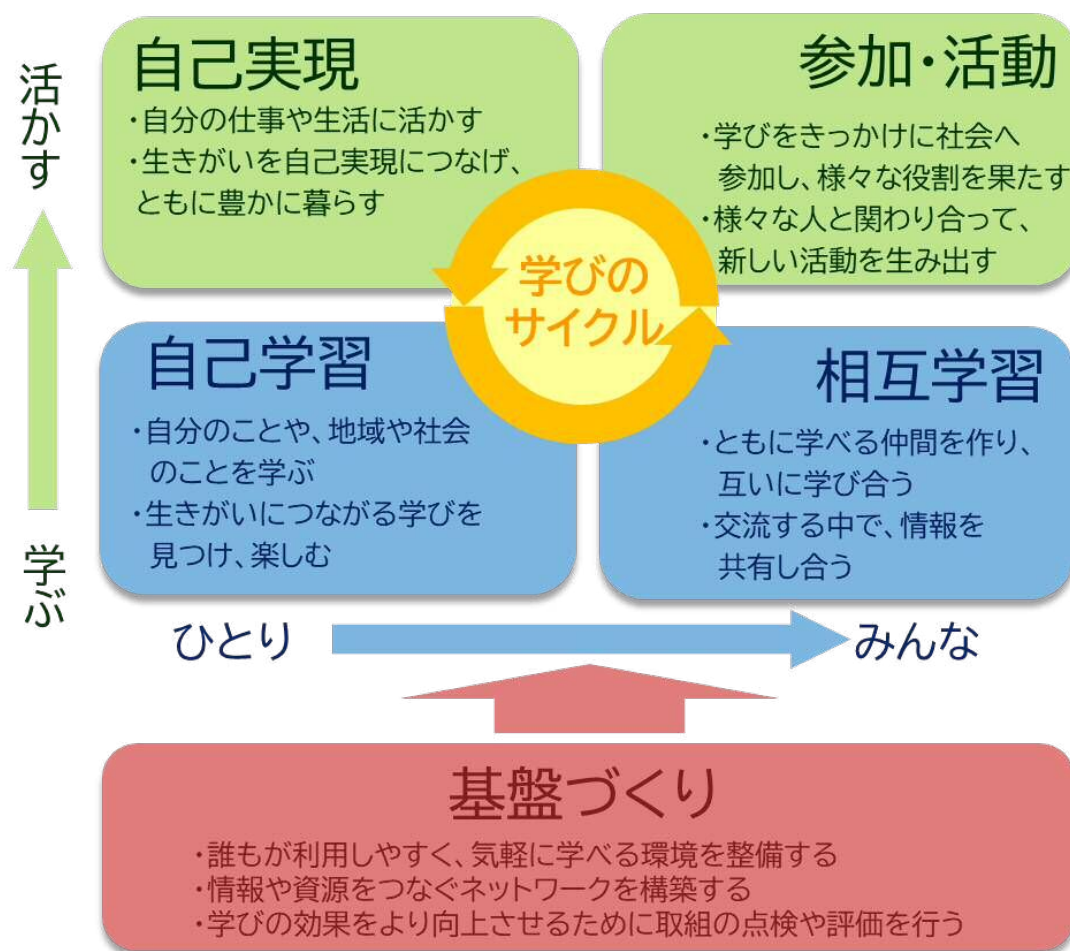
基本的な指針に生涯学習を支える基盤づくりを加えて、それらの関係を次のような図に整理しました。(11 ページ、図7)

図の縦軸を、学びの深まりを表す「学ぶ」と「活かす」とし、横軸を学びの広がりを表す「ひとりで行う学び」と「みんなで行う学び」としました。

これらの学びは、まったく別々のものでも、一方的なものでもなく、循環し、ときには同時に実現されます。それを「学びのサイクル」として示しました。

また、学びの環境やネットワークづくりなど、市民の学びや新しい活動を支援し、学びのサイクルを発展させるための「生涯学習を支える社会の基盤づくり」も進めていきます。

図7 学びのサイクルと基盤づくり



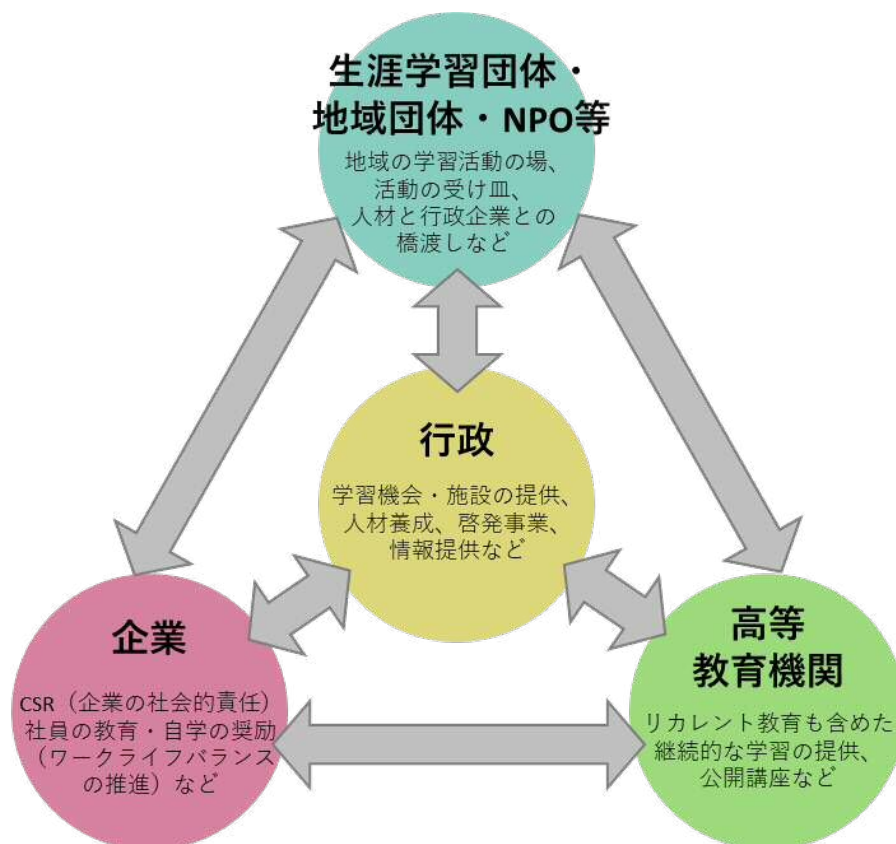
### Ⅲ. 生涯学習推進体制

第2次生涯学習推進大綱の推進期間においても、各機関との連携において様々な事業が展開されてきました。

さらなる生涯学習の推進のためには、行政、企業、高等教育機関、生涯学習団体・地域団体・NPO等が連携した生涯学習推進体制の確立が必要です。

今後も、生涯学習推進体制がより機能するよう生涯学習に関する情報や資源を共有できる体制を整えていきます。

図8 生涯学習推進体制



## IV. 推進期間

第3次静岡市生涯学習推進大綱では、市民とともに目指すまちの姿「世界に輝く静岡の実現」に向けて、第4次静岡市総合計画（令和4年〇月策定）と整合性を図りながら、生涯学習を推進していきます。

大綱の推進期間は8年間で、第4次静岡市総合計画と合わせ、目標年度を令和12年度としています。推進計画は、4年間で1つのサイクルとした前期・後期推進計画によって進めていきます。

図9 第3次静岡市生涯学習推進大綱の推進期間

